むすび プロジェクト

「むすびプロジェクト」は当グループのリハビリ病院を退院された患者さんが、
その人らしく生きいきと生活していただけるよう、支援するための取り組みです。
今回はその取り組みのひとつをご紹介いたします。

第5回 むすびプロジェクト研修会

ケアマネジャーの視点とケアプラン作成のプロセスを学ぶ

令和7年8月4日、東京品川病院にて第5回むすびプロジェクト研修会を開催しました。現地会場とZOOM合わせて関東カマチグループ職員725名が参加し「ケアマネジャーの視点とケアプラン作成のプロセスを学ぶ」をテーマに、ご講演いただきました。講義では『ケアマネジャーは患者さん本人よりも家族と関わる時間が長く、どうしても家族の介護負担を優先的に考えてしまう。このため病院スタッフの目線で患者さんの声を聞き、私たちに届けてほしい』という具体的なアドバイスも頂けました。また『患者さんの10年後20年後、どう最期を迎えるのかまで考え、長期的な視点で支援内容を検討している』といったお話もあり、退院後に長く続いていく生活期を見据えた退院支援の大切さを感じました。今回の研修を活かし、ケアマネジャーと我々病院スタッフにて情報共有を積極的に行い、質の高い退院支援に努めていきたいと思います。



▲ あおぞらの里 馬橋ケアプランセンター
主任ケアマネジャー 小椰淳弥氏



病院周辺マップ



交通のご案内

<京成電鉄勝田台駅からのご案内>

勝田台駅から東洋バスで米本団地行15分
「八千代リハビリテーション病院」停留所下車

<お車をご利用のご案内>

国道16号線柏方面からお越しの方

米本交差点を右折し病院後方入口よりお入りください。

国道16号線千葉方面からお越しの方

米本交差点を通過のうえ病院正面入口を左折してください。

<送迎バスのご案内>

京成勝田台駅北口、千葉ニュータウン駅より無料送迎バスが運行しています。
詳しくはHPをご確認ください。 当院HP▶

八千代リハビリテーション病院 広報誌
クローバー vol.60
令和8年 5月発行

企画発行 八千代リハビリテーション病院 広報委員会
〒276-0015 千葉県八千代市米本1808番地
TEL 047-488-1555 ／ FAX 047-488-1552

広報誌 Clover ／2026.5 春号
Yachiyo Rehabilitation Hospital

クローバー vol.60



CONTENTS

2P ✤ 新入職の皆さんへ
3P ✤ 新入職員代表挨拶
✤ 医療連携室のご案内
4・5P ✤ 令和7年度実績
6P ✤ 認知症サポーターについて
✤ ワンポイントレッスン
7P ✤ 院内DX推進プロジェクト活動報告
✤ 第3回ケアマネジャー懇親会
8P ✤ むすびプロジェクト

一般社団法人 巨樹の会
八千代リハビリテーション病院
〒276-0015 千葉県八千代市米本1808番地
https://yachiyo-reha.com

https://yachiyo-reha.com





院長
大鹿 芳郎

新入職の皆さんへ

ご入職おめでとうございます。

そして、数ある就職先の選択肢の中から当院を選んでいただきありがとうございました。心から感謝申し上げるとともに、病院を上げて皆さんの入職を歓迎したいと思います。

私が八千代リハビリテーション病院に初めて見学に来た時、良く挨拶のできる明るい病院だなという印象を持ちました。同行していただいたのが人気のある関東本部の副本部長だったからだと後からわかりましたが、それでも来訪される医師や医療関係者からおしなべて明るい雰囲気ですねとお褒めの言葉をいただくことが多いのも事実です。皆さんも、そんな印象を持たれて入職の日を迎えられたのではないでしょうか。今度は、そんな病院の一員となるわけですから、ぜひ皆さんにも明るく挨拶のできるスタッフになっていただきたいと思います。そして、八千代の回復期なら当院と、選んでいただける良い病院になるよう一緒に頑張っていきましょう。

新入職員代表挨拶

看護師

私にとって看護とは、患者さん一人ひとりの想いに寄り添い安心してその人らしく生活していけるよう支えることだと考えています。

学生時代の実習を通して、看護は単に病気をケアするだけではなく、その人の生活や価値観、人生に深くかかわる仕事であることを学びました。

特に回復期病院では、できなかったことができるようになる過程にかかわり、患者さんが自立を取り戻していく喜びを共有できることに魅力を感じ入職を決めました。

今後は、多職種とのかかわりを大切にしながら、回復期看護への理解を深め退院後の生活を見据えた支援ができる看護師へ成長していきたいと考えています。

また、同期との支え合いも大切にしながら共に成長し、病院に貢献できる看護師を目指して努力してまいります。

理学療法士

この度、新人理学療法士として入職させていただきました。

まだまだ未熟ではありますが、患者さん一人ひとりに最適なリハビリを提供できるよう頑張っていきたいと思います。分からないことをそのままにせず日々学ぶ姿勢を大切にしていきたいです。また、社会人としての責任を持ち、周囲の方々への感謝を忘れずに行動していきたいです。一日でも早く貢献できるよう精一杯頑張ります。

作業療法士

新しい環境への期待と不安を少し感じておりますが、毎日学ぶことの楽しさを実感しながら知識と技術の習得に励んでいきたいと思います。少しでも早く理想とするセラピスト像に近づけるように自己研鑽を重ねていきたいです。そして、患者さん一人ひとりに寄り添ったリハビリを提供出来るように努めます。

医療連携室のご案内

当院の医療連携室では専門知識をもった看護師、社会福祉士が多く在籍しており
入院に関するご相談から入院中、退院（退院先）までの支援を行っております。



入院前

対象疾患（詳細はHPを確認下さい）に基づきリハビリを希望される患者さんの入院相談、日程調整、入院に関するご案内を行います。

入院中～退院

医療費、生活費など入院中の費用に不安がある方への福祉サービスに繋がる情報提供、利用できる社会保障制度に関する情報提供、その他退院に向けた患者さん、ご家族からの問い合わせに対応いたします。

退院後の福祉施設や諸関連医療機関についての情報提供を行います。

患者さん、ご家族に寄り添いながら支援して参りますのでぜひご活用ください。

八千代リハビリテーション病院 医療連携室
TEL 047-488-1655（直通）
FAX 047-488-1656（直通）

八千代リハビリテーション病院 令和7年度実績

入院患者数
1,083名

患者満足度 ※1
当院を紹介したいと思いますか？
89.5点

病床利用率
97.8%

在宅復帰率 ※2
91.1%

平均在院日数
79.0日

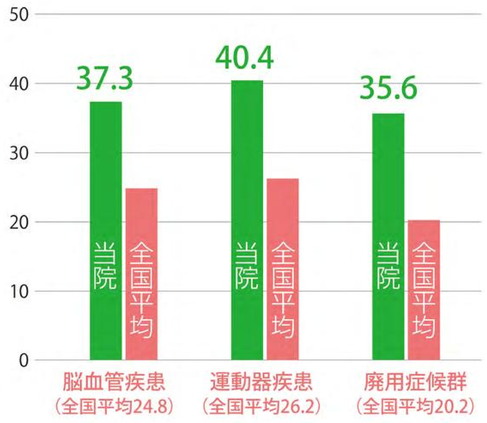
退院先
1. 自宅 79.6%
2. 介護老人保健施設 8.0%
3. 有料老人ホーム 1.2%
4. 特別養護老人ホーム 7.5%
5. サービス付高齢者住宅 2.0%
6. 長期療養病院 1.0%
7. その他施設 0.7%

リハビリ提供単位数 ※3
平均 **8.23単位**（2時間45分）
全国平均6.1単位

アウトカム実績指数 ※4
57.3

新規登録者数
訪問リハビリテーション **154名**
通所リハビリテーション **78名**

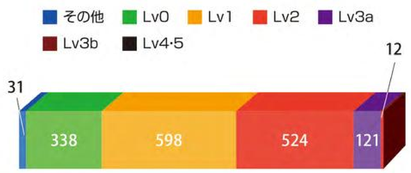
FIM利得 ※5（退院時FIM－入院時FIM）
機能的に自立度を図る評価法、点数が高いほど自立度が高い



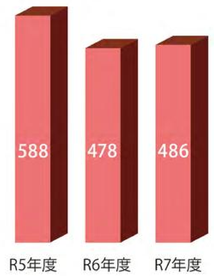
家屋調査実施数
入院時 **239件**
退院時 **278件**

実車教習実施数
48件

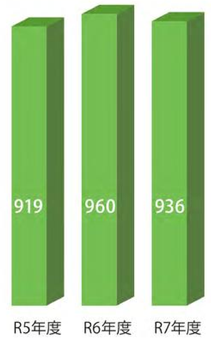
医療安全指標



1 レベル別医療安全管理報告件数

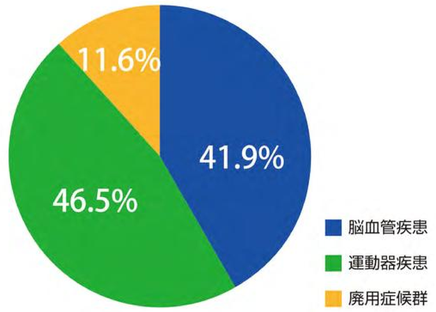


2 転倒・転落件数



3 ヒヤリ・ハット提出件数 ※6

患者様疾患別内訳



居住地域分布



※1 患者満足度
当院では、患者さんやご家族のご意見をより良いサービスに繋げていく為、退院時にアンケートをとらせて頂いています。アンケートの一例として、「当院の総合的な評価点（100点満点中何点）」を患者満足度として表現しています。

※2 在宅復帰率
回復期リハビリテーション病棟から退院された患者さんのうち、ご自宅などに戻られた方の割合を示す指標が「在宅復帰率」です。数値が高いほど、リハビリテーションを通して在宅での生活に必要な機能が回復したことを意味します（在宅には有料老人ホームなども含まれます）。

※3 リハビリ提供単位数
「リハビリ提供単位数」は患者さん一人あたりが1日に受けるリハビリテーションの時間です。リハビリテーションは20分を1単位として数え、単位数が多いほど、より多くの時間をリハビリテーションに費やしていることになります。

※4 アウトカム実績指数
リハビリテーションの効果を示す指標の一つが「実績指数」です。これは、患者さんの状態改善や早期退院を評価するもので、数値が高いほど、リハビリテーションの成果が出ていることを意味します。
回復期リハビリテーション病棟入院料1（最も手厚い体制）取得の基準として、実績指数40以上と定まっています。※診療報酬改定により、令和8年6月1日から実績指数は42以上に変更されます。

※5 FIM利得
機能的自立度評価表（Functional Independence Measure）の略で、食事や着替えなど、日常生活動作の自立度を評価する国際的な指標です。入院時と退院時の点数の差を「FIM利得」として表します。FIM利得が高いほど、入院中に日常生活動作が改善し、介助量が軽減した生活を送れるようになったことを意味します。

※6 ヒヤリ･ハット
ヒヤリ･ハットとは「ヒヤッとした」「ハッとした」出来事などの事故に至る可能性があったが、事故に至る前に発見されて防ぐことができた事例です。事故を出来るだけ発生させないようにするにはヒヤリ･ハットなどの気づきやミス、事故に繋がりかねない出来事を多く発見し情報共有することが望ましいとされています。

認知症サポーターの養成を始めました







厚生労働省は、認知症に対する正しい知識と理解を持ち、地域で手助けする「認知症サポーター」を全国で養成し、認知症高齢者等にやさしい地域づくりに取り組んでいます。当院でも、認知症の方や認知機能の低下の恐れのある方の入院が、40%を超えています。そのため、当院でも認知症の方もその人らしい生活を継続できるように支援するチーム活動を行っています。今年度は、地域でも活躍できるように認知症サポーター養成講座を開始しました。多職種で行ったグループワークでは、新たな視点に気づく機会になりました。今後も、入院患者さんをはじめ、地域の方々を支援できるスタッフを育てていきたいと思います。

認知症に関しての相談がありましたら、認知症サポーターバッチをつけているスタッフにお声掛け下さい。



認知症
サポーターバッチ

POINT これからの季節に役立つカラダケア！ ワンポイントレッスン

春になると気温も暖かくなり散歩や買い物等、外出する機会が増えてくると思います。
外出は気分転換や運動にもなり健康を保つためにはとても大事です。
しかし、その一方で外出機会の増加に伴い転倒リスクも高くなる為、注意が必要です。
そこで今回は転倒を予防する為の体操を紹介します。日頃から筋力とバランス力を鍛えて転倒を防ぎましょう！！

①股関節のトレーニング

目安：10−20回程度



まずは椅子に腰をかけ両手を胸の前で組み、背筋を伸ばしましょう。

❶ 1.2.3と数えながら膝を胸の前まで近づけ1.2.3と数えながらゆっくり戻します。
❷ 反対の足も同様に行い、足を交互に動かしましょう。

★背筋が曲がらないように意識しましょう
★主に下部腹筋、多裂筋、腸腰筋を鍛えることができます

②ふくらはぎのトレーニング

目安：10−20回程度



❶ 足を肩幅くらいに開き、椅子や壁などに手を添えましょう。



❷ 両足の踵をゆっくり上げ下げしましょう。

★この時にお腹やお尻に力を入れるとより効果的です。

③綱渡りウォーク



❶ 地面に一本の縦線をイメージします。その線上を歩くように足を縦に揃えながら歩きます。
❷ バランスをとりながら、小さめの歩幅で歩いてみましょう。

★廊下など、すぐに壁を触れられる場所で行いましょう。

院内DX※ 推進プロジェクト 活動報告



院内DX推進プロジェクトでは、業務の効率化と医療サービスの質の向上を目的として、さまざまなデジタル化の取り組みを推進しております。これまで紙で運用していた稟議書については「電子稟議書」を導入し、これまでの申請から決裁までのワークフローを電子化しました。これにより、書類管理の手間削減やペーパーレス化を実現し、職員の業務負担軽減にもつながっています。

また、動画生成AIの導入にも取り組み、本年度の入職式では新入職者向けオリエンテーションの約8割を動画化することに成功しました。繰り返し視聴が可能となったことで理解度の向上や説明内容の標準化が図られています。さらに、各部署における研修や業務マニュアルについても動画化を進めており、教育体制の充実と指導の均一化に寄与しています。

今後も院内DX推進プロジェクトでは、現場の声を反映しながら、より働きやすい環境づくりと質の高い医療提供体制の構築に向けて取り組んでまいります。

※DX（デジタルトランスフォーメーション）とは、デジタル技術を活用して、仕事をより便利で効率的にし、働きやすい環境づくりやサービス向上につなげる取り組みです。

第3回

ケアマネジャー懇親会





1月30日、近隣ホテルにて地域のケアマネジャー37名をお招きし、当院の通所・訪問リハの実績および症例報告会を行いました。当院からは医師をはじめとした多職種が参加し、日頃のリハビリ現場での具体的な取り組みや改善のプロセスを共有しました。その後の懇親会では、日頃の連携への感謝を伝えつつ、リラックスした雰囲気の中で現場の本音や細かな情報交換を行うことができ、非常に有意義な時間となりました。この顔の見える繋がりを、今後のより良い地域ケアへと繋げてまいります。